

広い範囲で水路の一斉清掃を実施

5月8日、市内の一斉水路清掃の一環として水路の清掃が行われました。

この作業には一般住民が主体となっており、農家が主に関係する

部分もあるので、作業を区分して行っています。

水路からの引き上げについては、機械力を使いますが、一部機械力の使えないところがあります。今年はその間に、

大量の土砂が流れ込んでいました。大森農道の東詰めから原田幸夫さん

宅までは地形的に小型建機では作業が無理です。従来からここでの引き上げ

は人力でしたが、今年は特別に土砂が多く3班の燃やせるごみ集積所そばの土砂集積所まで運ぶことが大変な状況になってしまいました。そこで、運搬用のトラックをここにまわして、引き上げた土砂を別の集積所まで運ぶこととなりました。

昨年大量の空き缶などが出た森下区の水路は、今年はともきれいな状態で、昨年とは関係者の意識が全く違ったことが分かります。

たくさんの方の参加で、作業が無事に終えられたことに感謝です。

一番きつい作業 「落水路の泥上げ」

5月1日落水路の泥上げ作業を行いました。田んぼからの落水に混じる泥が水路に溜まっているのを救い上げる作業で、人手

途中で休みを入れながら、懸命の作業です。この作業を終えないと、スムーズな排水ができません。

だけで行う作業で、年間通じて一番きつい作業ではないでしょうか。

法人の役員が部分的に作業をされているところもありますが、大部分はこの作業の対象です。



除草作業は、長時間苦しい姿勢を強いられる



少し大きめの手袋と大きなスコップを使って、しっかりお手伝いをしてくれました。

力を合わせて大量の土砂を除去



予定時間を5分ほど過ぎたものの、大漁の土砂を除去することができました



次々に一輪車がやってくるので、一息つく暇もない

残っていた土砂が見る見るうちに引き上げられ、作業時間5分の延長で、完了しました。引き上げた土砂を見て、全員でびっくり。2トンダンプカーに積み切れないほどの量でした。力を合わせる事ができれば、凄い仕事をやり遂げられます。

1班の方々と多くの事業所が立地する地域北部は、岩屋地区から流れてくる丸田川が地区内を囲むように流れます。この水路には、東側の山地から大量の水と土砂が毎年流れ落ちます。そのため年に一度堆積した土砂を、関係者で除去してい

ます。5月20日、事業所関係から13名、地域住民、環境を守る会有志の合計20名で作業を行いました。今年度は、一部分に集中して溜まっていたので、そこだけ作業することにしました。時間を30分間に決めて作業を行いますので、スピード勝負です。土砂を引き上げる作業、運搬する作業、ふたつのグループが競い合うように作業を行いました。時間が迫って来たので、途中でやめるようになると思っていたら「ここまでやったのだから、やりましょう」という若い人の声。そこからラストスパート、最後に

感染予防を一番に考え総会を書面で実施

新型コロナウイルスの勢いが衰えたと思いましたが、簡単には収まりそうにない状況です。本年も八方原の環境を守る会の総会は書面上で行うこととなりました。

小紙の発行で、毎月の出来事はお伝えしてきていますが、年間を通して決算書を作製してみると意外な数字が、見えてきます。

例えば、日当支払い額も638,000円(役員報酬含む)と支出のほぼ半分を占める割合になっていきます。それだけ共同活動として多くの人が参加していることとなります。延べ人数では289人となりました。

多くの行事が感染予防のためにできないために300人以上の参加延べ人数だった3年前に比較すると、少し減少しているのようが見えますが、冬時期の農道清掃や水路の除草など、多くの新たな作業ができるようになってきました。

早くマスクを取って、もっと楽しく活動ができるようになると良いのですが、「もしも」ということを考えると、無理はできない結論になります。もうしばらく辛抱しましょう。